

石木ダム問題

佐世保市の水は 足りている 今後 人口減も予想され 水需要は減る



ドラム缶ストーブで暖をとりながら座り込みは続きます

石木ダム建設反対住民や専門家は、佐世保市の水需要予測は実績に対して過大な予測となっていることを指摘しています。これに対して、「広報させば」9月号（2022年）では「水

需要は横ばい」と説明しています。小田のりあき市議は「この横ばい」の根拠について質問しました。水道局長は、「有収水量の大部分を占める生活用水において、給水人口が減少傾向を続けているのに対して、一人当たりの使用水量は、過去実績が増加傾向をしめしている」ので「横ばい」だと答弁しました。

小田市議は、有収水量（家庭や企業、学校等で使用する水量）の2000年度の実績値は一日あたり6万8958m³で、2020年度は5万9109m³で、その差9849m³、つまり14%も減少している。（データは

旧佐世保市）「横ばい」ではなく、減少すると予測するのが当然ではないかと追及。国の予測では50年間に40%も減少するといわれており、その理由は人口減少と節水機器の普及だと質問しました。

次に小田市議は、「佐世保市は話し合いでの解決を放棄し、行政代執行による強行的な解決を図るという考えは許されない」と市長を追及。

市長は、「事業を進展させるために必要な話し合いであれば、当然、積極的に言う」と、ダム建設ありき一辺倒の答弁でした。

県議選に石川さとる地区委員長を擁立



日本共産党長崎県北部地区委員会は、3月31日告示の県議選（佐世保市・北松区）に、石川さとる党北部地区委員長（70歳）を擁立することを発表しました。石川氏は松浦市調川町出身。松浦高校、長崎大学経済学部卒。

石川氏は「石木ダムの中止を。その予算を子育てや暮らし、物価対策に」「佐世保から若者を戦場に送らせない。9条をいかけた外交で日本とアジアの平和を」と訴えています。

市民から12月議会に出された請願

	共産	自民	市民クラブ (国民・社民)	公明
インボイス制度の実施延期を求める請願	○	×	×	×

議案名	反対要旨
一般会計決算(2022年度)	石木ダム建設事業やIR(カジノ)事業に反対のため
国民健康保険事業特別会計決算	高すぎる保険税に反対のため
後期高齢者医療事業特別会計決算	年齢で区切る制度に反対のため
介護保険事業特別会計決算	介護保険制度の更なる充実を求めるため
競輪事業特別会計決算	公営ギャンブルに反対のため
佐世保市個人情報保護法施行条例制定の件	個人情報保護法に反対のため
佐世保市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等にかんする条例制定の件	個人情報保護法に反対のため
佐世保市情報公開条例及び佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会条例の一部を改正する条例制定の件	個人情報保護法に反対のため

※「個人情報保護法」はデジタル改革関連法により改定され、これまで個人情報「保護」のための規制がおこなわれてきましたが、今回の法改定は「利活用」へと考え方を180度転換し、自治体を持つ個人情報を民間の儲けのために吐き出せようとするもので、まさに法の改悪、個人情報保護行政の後退と言わなければなりません。